

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



O022-P13

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

## 「南から来た火山の贈り物」伊豆半島ジオパーク構想と実現への取組 Volcano gifts from the south: conception and preparation for the Izu Peninsula Geopark

小山 真人<sup>2</sup>, 肥田 光弘<sup>1\*</sup>, 植田 基靖<sup>1</sup>  
Masato Koyama<sup>2</sup>, Mitsuhiro Hida<sup>1\*</sup>, Motoyasu Ueta<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 静岡県伊東市役所, <sup>2</sup> 静岡大学防災総合センター

<sup>1</sup>Ito City Government Office, <sup>2</sup>Shizuoka University

2011年3月28日に、静岡県伊豆地域の13市町（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町）と県、観光協会、国の出先機関、地元大学、NPO法人などが協力して、「伊豆半島ジオパーク推進協議会」を設立し、現在、この協議会が中心になって、伊豆半島ジオパークの実現に向けた取組を進めている。

フィリピン海プレートの北端に位置する伊豆半島は、その全体がかつては南洋に浮かぶ火山島（一部海底火山）であった。その後のプレートの北進によって本州に衝突し、半島の形になったのは60万年前という、地質学的にはごく最近の出来事である。プレート運動は、今も伊豆の大地を本州に押し込み続け、伊豆と本州を合体させようとしている。さらに、太平洋プレート沈み込み帯の火山フロント付近に位置する伊豆半島は、地下深部から次々とマグマが上昇し、活発な火山噴火が続く場所でもある。

こうした二重三重の地質学的特異性が、伊豆の大地を形づくったと言え、日本や世界のどこを探しても同種の例を見ない、地球上の特異点とも言える場所である。

伊豆半島ジオパークのテーマは、伊豆半島のこの特異な成り立ちと地学的な現状を考慮して「南国から来た火山の贈りもの」とし、その中に5つのサブテーマ、(1)本州に衝突した南洋の火山島、(2)海底火山群としてのルーツ、(3)陸化後に並び立つ大型火山群、(4)生きている伊豆の大地、(5)変動する大地とともに生きてきた人々の知恵と文化、を設定した。

今後は、このテーマ群に沿った伊豆半島各地の保全対象の洗い出しや解説看板の設置など、ジオサイトの指定・整備作業を進めるとともに、シンポジウムや野外見学会の実施による普及活動や、ジオガイドの養成、ジオツアーの実施など、伊豆半島ジオパークの実現に向けた取組を進めていく。